

Hack For Japan

エンジニアだからこそできる復興への一歩

Hack
For
Japan

第55回

GAMATHON

～島ソン第3弾はクラウドファンディングを目指す

この連載の第32回(2014年8月号)でCode for Shiogama/Hack For Japanが2014年5月24～25日に行った「島ソン～浦戸諸島/ハッカソン～」を紹介しました。今回はその島ソンの第3弾となる、2016年3月12日に開催した「GAMATHON」を紹介します。

島ソンの成果物がもう1つ誕生!

「GAMATHON」を紹介する前に、島ソンから生まれた成果物のご報告から。2014年に開催した島ソンで生まれた「渚の妖精ぎばさちゃん(TwitterID: @gibasachan)」はこの連載の中でも何度か紹介してきましたが、このたび同じ島ソンで生まれたプロジェクト「Island Girls」(図1、2)がついにリリースされました!

「Island Girls」は宮城県塩竈市浦戸諸島を舞台にしたアドベンチャーゲームで、浦戸諸島の4つの島それぞれが舞台。そしてそれぞれの島ごとに1人ずつ、ヒロインとなる女の子がいます。アドベンチャーゲームの中では浦戸諸島の写真とともに歴史や観光スポットが出てくる作りです。

◆ 図1 Island Girls



◆ 図2 Island Girlsプレイ中の画面



現在、Android版がGoogle Playにて無料でダウンロード可能です。この機会に「Island Girls」を通じて浦戸諸島のことをぜひ知ってもらえればと思います。

● ダウンロードリンク

<http://bit.ly/projectIG>

GAMATHON—島ソンの流れをくむアイデアソン

これまで行っていた島ソンは宮城県塩竈市の離島である浦戸諸島が舞台でした。塩竈市の中でもっとも東日本大震災の爪痕が色濃く残る地域です。今回は島ではなく宮城県塩竈市の本土側での開催です。

実は「islands court」という浦戸諸島と塩竈本土を

つなぐ新しい拠点が生まれしました。ここはコワーキングスペーススタイルのカフェでネットワーク環境なども充実しています。島ソンのときは、離島だけあって電波の入りに難があったので、電波ハックとしてステレンスボウルでパラボラアンテナを作ったりしていましたが今回はその心配はありません! パラボラアンテナハックも、ないとちょっと寂しいですが(笑)。

GAMATHONは、復興庁の「新しい東北」先導モデル事業で

ある「塩竈アイランズネットワーク協議会」の「浦戸サステナビリティ プロジェクト」の一環として、2016年3月12日に行われました。前回の島ソン2015同様、日帰りのアイデアソンです。

島ソンでは「大学のゼミと連動することでプロジェクトの継続性」を作っていました。今回は別のところに着目しました。それはプロジェクトの実現可能性です。「アイデアソンのみのアイデアソン」と「ハッカソンがセットのアイデアソン」では、アイデアの質に実現可能性の点で差があることが多いと感じていました。何が差になるのか？ それはハッカソンだとプロトタイプingleレベルであろうと一応の形をそこに作るのですがアイデアソンではそれが無い。そこで今回はまた新しい工夫をしてみました。それは「クラウドファンディングのプロジェクト」として作ること、です。

今回のテーマは「塩竈を盛り上げるアイデア」。初回のテーマは「島の課題を解決する」、前回は「島をより楽しむためのしくみを考える」でした。参加者のハードルをさらに下げするために、重くならないテーマで意見も活発に出てきました。

また、今回は島ではなく塩竈市内陸で開催したので、多くの方が見学にいらしていました。塩竈市長佐藤昭さんもいらしていました(写真1)。



GAMATHONの流れ

GAMATHONでは島ソンの肝となる「島あるき」

◆写真1 集合写真



Column Code for Shiogama 紹介

Code for Shiogamaは東日本大震災で被災した宮城県塩竈市の地域活性をITの力で行っていかうという団体です。震災復興団体とIT技術者がお互いに意見を出し合うミーティングの開催をしています。Code for ShiogamaにはFacebookページもあります。

<https://www.facebook.com/CodeForShiogama>

はなくなっています。場所が島じゃありませんからね。開催日程が3月12日と震災から5年の節目の日の翌日だったこともあり、まずは震災当時の振り返りからスタート。そしてその中でアイデアワークを行いチーム分け、そして発表の流れです。今回の参加者は学生がいない代わりに、塩竈にお住いのさまざまな方達が参加しました。



アイデアソン！

アイデアソンではまず塩竈の好きなところを箇条書きしてもらい、次にその紙を隣の人に回して一言コメントを書いてもらうというのを繰り返してアイデアに肉付けをしていきます。

このあとがアイデアソンの肝となるスピードストーミングです。スピードストーミングは写真2のように対面し、持ち時間3分で対面しあった2人でのブレインストーミングを行います。持ち時間が終

わったら片方の列が1人分ずれて、また別のひとと2人でブレインストーミング。この手法の良いところは通常のブレストと異なり、しゃべらないで終わってしまう人が出ないことです。人によって見ているところが異なるので、このスピードストーミングでお互いの情報を交換しながらアイデアを膨らませます。

スピードストーミングが

Hack For Japan

エンジニアだからこそできる復興への一歩

数セット終わったら、次は自分なりのアイデアをまとめてもらう「アイデアスケッチ」と呼ばれる工程に行きます。ここで各人最低1つは自分のアイデアをまとめます。このアイデアスケッチをグルーピングし、ここでチーム分けを行います。

チームに別れてからはチーム内でディスカッションをして、その内容を模造紙にまとめて発表となります。

そして成果発表へ

それぞれのチームのテーマと発表内容を紹介しましょう。

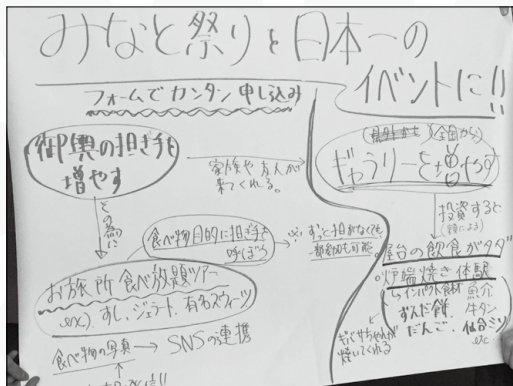
①「みなと祭りを日本一のイベントに!!」

みなと祭りは毎年数万人が訪れる塩竈でも最大のお祭り。しかし、そのみなと祭りでも神輿の担ぎ手

◆写真2 アイデアワーク



◆写真3 みなと祭りを日本一のイベントに!!



が年々減少しているため、担ぎ手になるためのハードルを下げる、そして担ぎたくなるためのインセンティブを用意するというものです。担ぎ手のハードルを減らすためにWeb登録を可能にする。実は現在は担ぐタイミングに関係なく、その日の朝に神社に集合するようになっており、昼からなら時間が空く人などに対応できていないんだとか。また、インセンティブには屋台食べ放題などの案が出ていました。これをクラウドファンディングで実現するためのリターンとしても屋台で使えるチケットを用意するという案も発表していました(写真3)。

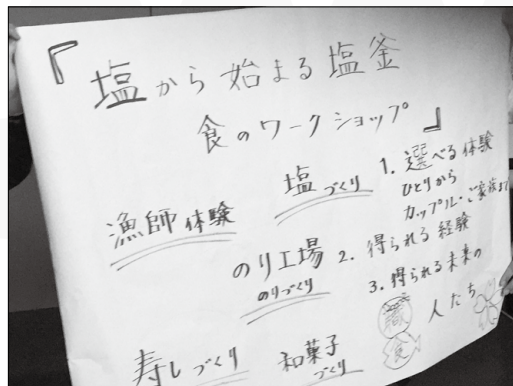
②「塩から始まる塩竈」

食のワークショップについてのアイデアです。塩作り、漁師体験、寿司作りなどを体験するワークショップが考えられていました。今回会場となった islands courtはキッチンスペースをレンタルすることができ、それを生かしたアイデアとなっています(写真4)。

③「塩竈から未来のクリエイター発掘」

映像マジックという、映像の編集で行う面白動画のコンテストおよびワークショップを行うというアイデア。塩竈を舞台にした映像マジックのコンテストで、ネット上で塩竈のネタが話題になることを目的としたものです。クラウドファンディングのリターンとしては、塩竈に来たときにガイドをつけて案内するという案が出ていました(写真5)。

◆写真4 塩から始まる塩竈



④「ふるさと塩竈」

現在塩竈でのふるさと納税が行われていますが、ここにオール塩竈でふるさと納税のリターンを作り、より税収をアップさせる。そして市民に必要なものをそこから作り出していこうというプロジェクト。これはクラウドファンディング相当のものをプロジェクトで作るといふ、ほかのプロジェクトとはまた別の視点となっています(写真6)。

以上4つのアイデアを発表して、GAMATHONは終了となりました。

イベントを終えて

前回は次の言葉で締めていました。「こうやって地方でハッカソンなどイベントを起こしても、イベントが終わったら、それで終わりというケースが多いです。ここでハッカソンをしたことにもっと意味を持たせるためにも、今回ここで出たアイデアや作ったものを、これからも継続していきましょう」。実際にイベント終了後も継続していくプロジェクトが複数生まれました。

前回の島ソンですがアイデアソンに絞ったものもあるかもしれませんが、実現可能性が昨年の島ソンに比べてちょっと難しいものが多いかなという印象でした。今回のGAMATHONではクラウドファンディングというある程度現実的なプロセスを前提に置いたためか、だいぶ実現可能性が高いものが出てきたと思っています。

最後に、今回のアイデアソンでも多くの方々に協力をいただきました。そして塩竈アイランズネットワーク協議会のみなさん。本当にありがとうございました。

Code for Shiogamaでは復興に携わっているかとIT技術者が議論することで生まれる化学反応を生み出したいと思っています。今後も定期的に開催してまいりますのでよろしくお願いいたします。SD

Column islands court
について

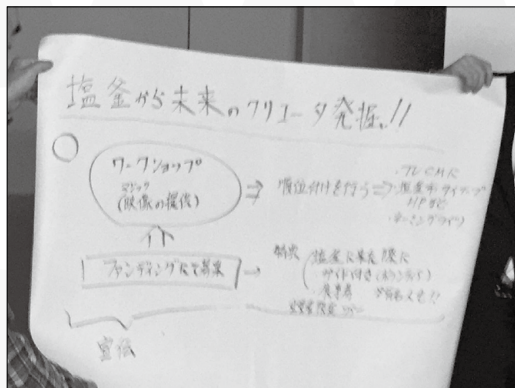
今回GAMATHONの会場となった「islands court」は本塩釜駅近くに新しく作られたコワーキングカフェ。復興団体の集合拠点として、そして浦戸諸島の本土でのアンテナショップとして作られました。

GAMATHONのようなイベントへの貸出はもちろんのこと、「コワーキング」が名に付くとおりコワーキングスペースとしても利用できます。電源・Wi-Fiも完備。300円のコーヒー一杯で2時間利用できるリーズナブルさ。しかも、コーヒーは水出しで作ったこだわりの逸品。

そして、「島のおばんざい」という名前で「浦戸諸島のお母さんたちが作った料理」も楽しめます。メニューは日によって異なるのですが、渚の妖精ぎばさちゃんの元となったギバサ(標準和名:アカモク)をはじめ、メロウドの天ぷら、ふぐの天ぷら、塩辛など。どれも200～500円の低価格。

復興関係者以外にも近所の奥様が憩いの場として利用する姿も多く見られます。塩竈に来る機会があればぜひお立ち寄りください。

◆写真5 塩竈から未来のクリエイター発掘



◆写真6 ふるさと塩竈

